

## 米国禅センターに参じて

第六回生 安藤 嘉則

(駒沢女子大学教授)

平成二年の夏から秋にかけてのアメリカ禅への旅は生涯忘れぬ体験であった。もうあれから二十七年の歳月を経ようとしているが、いまでも懐かしい数々の思い出がよみがえってくる。

ロス到着後、ロサンゼルス禅センター（ZCLA）にしばらく滞在し、ロス郊外の禅マウンテンセンター陽光寺の安居に合流した。マウンテンセンターも今はだいたいぶ変わってしまったであろうが、来る日も来る日も抜けるような夏のカリフォルニアの青い空の下、巨大な松の林にその法堂や坐禅堂の諸堂宇が点在していた。巨大な松から落ちてくる松ぼっくりはちようどパインアップルと同じくらい巨大な大きさであり、これが落ちて頭に当たったら、などと心配したものである。諸堂宇は手作り感があるもので、大きなトレーラーが乗り付けられて、それをサンガトレーターと呼んで、メンバーのコミュニケーションの場となっていた。伽藍は日本の寺院建築のようなりっぱなものではないが、摂心会中に参加していた修行僧やメンバーたち

の熱気は堂内に溢れていた。この坐禅堂での経行は日本の曹洞宗で行われている経行とは異なり、早足で堂内を歩くので、当初は違和感を覚えたが、足の血行もよくなるし、経行中、用を足すのに列を離れてトイレに行き、また合流する様子を見て、なかなか合理的であると感じた。

前角老師の大衆に対する英語の提唱は、実に氣迫溢れるものであった。前角老師の提唱録は編集されて出版もされているが、やはり前角老師のあの肉声を再び聴いてみたいものである。この提唱の他に、早朝、前角老師に独参の機会をいただいた。会下としての参禅ではないため、日常底のなにげない話の中に前角老師の家風を体験できたことは、かけがえない財産となったと思う。

八月撰心会は解制の時期に当たり最後に首座法戦式（ダルマ・コンバット）が行われた。さすがダイバートの文化があるのであるのか、厳しい応酬がかわされるとともに、ユーモアのセンスがある質問もあり、思わず一同が笑うシーンも見られた。

この夏の撰心を終えてロス市内のZCLAに戻り、禅宗寺の坐禅会に参加したり市内見学をしたりしていたが、まもなく前角老師よりニューヨークの各禅センターへの訪問をご指示いただいた。

ロスからニューヨークのJFKへ飛び、まずはローリー大道老師の禅マウンテンモナストリー

へ向かった。ニューヨーク州のハイウエイを北上しすると、野生の鹿の群れなどがみられ、同じニューヨークでもマンハッタンとは全く別の風景にアメリカの広大さを感じたものである。このモナストリーは伝説のフェスティバルの行われたウッドストックの近郊のMtトレンパーに位置し、ここに約1週間くらい滞在した。この禅センターの堂宇は教会を建物で禅寺にしたが、朝課のとき、女性のメンバーが合唱して唱えるハートストラ（般若心経）は実に美しいものであった。メンバーによると、教会の上部に読経の音か反響して荘厳な音声となるので、それを天使の声あるいは天使の響き（正確な原語は失念）とっているとのことであった。滞在期間中、作務のときは広大な芝生を芝刈り機で刈る作業を行っていたが、ゴルフ場にある芝刈り用のトラクターで作業している光景は日本の禅道場ではあり得ないシーンであろう。

この禅モナストリーから禅コミュニティ・オブ・ニューヨークの徹玄老師を訪問したが、ちょうどホームレスのための宿泊施設をつくる社会事業に奔走されている時期であった。徹玄老師のおはからいで禅センターが経営するベーカーリーのトラックの助手席に乗ってウォールストリートや貿易センタービル、セントラルパークなどをマンハッタン中を見物したことはとても思い出深いものとなった。

その後一旦ロスに戻り、すぐにサンフランシスコに向かい、フリーウェイでカリフォルニア

の砂漠のような一帯を北上した。その光景は名曲「ホテルカリフォルニア」の冒頭の *on a dark desert highway* のものであった。最初にオークランドの秋葉玄悟老師の好日庵を訪れ、まだ建設中の坐禅堂を見学した後、カリフォルニア大学バークレー校を訪れ、ゴールデンゲートブリッジを渡ってグリーンガルッジ・ファーム禅センター（蒼龍寺）に宿泊した。このグリーンガルッジではメンバーとともに坐禅や作務に参加することができたが、滞在期間中たまたま作務ミーティングで、仏教ホスピス運動で活躍されていたハートフォード禅センターのイツサン和尚の訃報が告げられ、一同で冥福を祈ったことも今思い返される。その後サンフランシスコ禅センター、桑港寺を訪問し、鈴木俊隆老師の改めて偉大な功績を知り得たのである。

当時、私は曹洞宗宗学研究所に所属していたため、滞米の期間を限定せざるを得なかったが、それでもこのアメリカ禅への旅は私にとって強烈なインパクトを与える体験であった。黒田武志老師に強く勧められなかったならば、私はおそらくアメリカに行っていなかったであろう。今更ながら黒田老師、前角老師からいただいた御恩を心より感謝する次第である。



マウンテンセンターの夏安居にて